

過去の地震から知る、未来の備え ～災害時には「防犯」も大切

名古屋大学災害対策室 木村玲欧

未来の地震にそなえるためには、過去の地震を知ることが大切。1945年にこの地域で2,306人の死者を出した「三河地震」から、未来の備えにつながる教訓を考えていきます。

■戦争中だったことも重なり、食料が無くなってしまったのか、畑に植えたイモ床などが盗まれた。また、「兄が死んで食べるものがない」という理由で、米泥棒にも入られた。(宝飯郡形原村(蒲郡市形原町)・三浦美恵子さん(姉)・佐野辰雄さん(弟))

さつまいもの「いも床」を家の前の畑に入れるだね。すると、いもの芽とつるが出てくる前に「いも床」が盗まれた。うちの前が道だったもんでよく盗まれた。みんなその日その日を生きるのが一生懸命だっただね。

あと雨の降る日だね、工場から出てきたら倉庫が開いて見ると、泥棒が中で米を盗んどった。「兄が死んで食べるものがないもんだん」とね。後で、その泥棒の兄さんの墓参りに行きました。



絵 藤田哲也

「災害が起きると治安が悪くなって、犯罪が増えるのではないか」という質問を受けます。これには「今の日本では犯罪の激増は考えにくいけれども、『震災特有の犯罪』と『震災デマ』の2点については、事前によく理解して災害が起きたときには十分に気をつけてください」と回答しています。

阪神・淡路大震災を例にとると「犯罪認知件数は、震災のあった1995年には前年に比べ15%減ったが、1997年には震災前の水準に戻った」(2005年1月14日・神戸新聞)とあります。どうやら「災害＝犯罪増」という単純なものではないようです。ご安心ください。ただし、震災という事態を利用した事件、特に「窃盗事件」と「悪質商法」にはご注意ください。窃盗事件は、空き巣(避難等で留守の家)、車上狙い(自宅駐車場や路上駐車中の車)、置引き(避難所や復旧現場等)などがあります。また、悪質商法は、レンタル簡易トイレの執拗な勧誘、家屋・屋根の簡単な修繕による高額請求、一方的な見積もりによる仮設住宅の売込み勧誘などがあります。

これには、1)お金や貴重品は必ず身につける(銀行の貸金庫も便利)、2)家・車には必ず鍵をかけ空き家・長期の放置車両であることを見破られない、3)知らない人からの電話には安易に答えない(個人情報などを漏らさない)、4)契約はひとりではない(点検・修理を装う悪徳業者に気をつける)、5)被害に遭ったら必ず警察に届ける(カードや証書等が別の犯罪に使われるのを防止する)の5つが有効です(新潟県警察本部ホームページを一部改変)。

また、1923年関東大震災では、「井戸に毒を入れた」というデマによる朝鮮系の人々の虐殺事件がありました。阪神・淡路大震災でも「路上生活者がこぞって婦女暴行をしている」「外国人が震災火災に乗じて放火した」という震災デマが流れました。警察・行政・マスコミ等の情報をもとに冷静な判断をして、社会不安を増大させる震災デマには毅然とした態度で接してください。